

<現代人間学部生活環境学科> (認定課程: 中一種免(家庭))

①各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学生活に適應し、自ら学ぶ習慣を身につけるとともに、教職を目指す意思を明らかにする。「生活環境基礎演習Ⅰ」の「読む」「書く」「調べる」「まとめる」といった学習に必要な基礎的技能を習得し、教員としての基礎・基盤を形成する。また、衣生活、住居、高齢者、女性、家族とその福祉に関わる基礎的内容を網羅的に理解する。
	後期	教育の概念、思想、歴史などを学び、教育とは何かについての基礎的、体系的な理解を深める。「生活環境基礎演習Ⅱ」における「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」などの体験学習を通して、日本文化の理解や作法、対人援助の技能を身につけ、協働学習によりコミュニケーション力を養う。また、現代社会における食生活や家庭経営の基礎知識を習得し、家庭科に必要な専門性を高め教師としての基盤を形成する。
2年次	前期	教職の意義、教員の役割、生徒の心身の発達について理解し、教師となる理論的基盤を多角的かつ段階的に学習する。「生活環境基礎演習Ⅲ」の学外体験実習を通して、観察力、交渉力、コミュニケーション力を身につけるとともに、教科の内容についての理解を深め、教員としての知識・技能の習得に努める。さらに、衣食住に関する教材の取り扱いと学習指導の方法(実験・実習)について理解する。
	後期	現代社会における様々な教育問題についての理解を深める。「生活環境基礎演習Ⅳ」において「まとめる」「調べる」「プレゼンする」という主体的学習やグループ学習を通して、「表現」「情報収集」「伝達」についてのスキルを習得する。また、家族、家庭に関する教材理解を深め、多様な学習指導の方法(ロールプレイング、ゲーム、視聴覚教材やICTの利用など)について理解する。
3年次	前期	教育課程やその歴史の変遷について理解し、教育課程における道徳の位置づけ、道徳教育の方法を学ぶとともに、特別活動の意義を理解し、具体的な指導の方法を身につける。家庭科の指導や教材作成を実際に行い、授業計画や学習指導案の作成方法、教材の配置、評価の方法について理解するとともに、ロールプレイングやアクティブラーニングの実施方法について学ぶ。専門教育科目の履修を通して教科の内容についての理解を深め、教員としての知識と技術の習得に努める。また、中学校のみならず高等学校の免許取得の意思を固める。
	後期	模擬授業を実践し、指導計画、指導法、評価の方法を体験的に学ぶ。教えることと学ぶことの違いを理解し、学習者主体の学習指導方法を修得する。生徒指導の意義、課題を理解するとともに、学校カウンセラーとの連携の在り方についての理解を深め、諸問題に対応するための基礎的技能を習得する。専門科目の履修によって教材解釈を深め、教員としての資質を高める。実際に支援の必要な人との交わりを通して、支援の基礎的技術、コミュニケーション力を身につけるとともに、支援の在り方や教育方法について考察する。
4年次	前期	教育実習に向けて2年次、3年次で習得した内容を整理する。実際の教育現場に身を置き、学校経営、教育の実際を経験するとともに、現場の教員から指導を受け、より実践的な課題に取り組む。生徒とのコミュニケーションを体験し、教師の仕事に対する使命感や誇り、生徒に対する愛情や責任感など教職の重要性についての学びを深める。不足している専門知識を補い、教師に必要とされる知識や技術の習得に努める。
	後期	4年間の学びや教育実習を振り返り、将来、教員になるうえで、自己にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、課題解決のための道筋を立てる。「卒業研究」を通して専門性を高めるとともに、不足している知識や技能を補いその定着を図るようにする。

※ 認定を受けている課程ごとに記載。

<現代人間学部生活環境学科> (認定課程: 高一種免(家庭))

①各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学生活に適応し、自ら学ぶ習慣を身につけるとともに、教職を目指す意思を明らかにする。生活基礎演習Ⅰの「読む」「書く」「調べる」「まとめる」といった学習に必要な基礎的スキルを習得し、教員としての基礎・基盤を形成する。また、衣生活、住居、高齢者、女性、家族とその福祉に関わる基礎的内容を網羅的に理解する。
	後期	教育の概念、思想、歴史などを学び、教育とは何かについての基礎的、体系的な理解を深める。「生活環境基礎演習Ⅱ」における「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」などの体験学習を通して、日本文化の理解や作法、対人援助のスキルを身につけ、協働学習によりコミュニケーション力を養う。また、現代社会における食生活や家庭経営の基礎知識を習得し、家庭科に必要な専門性を高め教員としての基盤を形成する。
2年次	前期	教職の意義、教員の役割、生徒の心身の発達について理解し、教師となる理論的基盤を多角的かつ段階的に学習する。「生活環境基礎演習Ⅲ」の学外体験実習を通して、観察力、交渉力、コミュニケーション力を身につけるとともに、教科の内容についての理解を深め、教員としての知識・技能の習得に努める。さらに、衣食住に関する教材の取り扱いと学習指導の方法(実験・実習)について理解する。
	後期	現代社会における様々な教育問題についての理解を深める。「生活環境基礎演習Ⅳ」において「まとめる」「調べる」「プレゼンする」という主体的学習やグループ学習を通して、「表現」「情報収集」「伝達」についてのスキルを習得する。また、家族、家庭に関する教材理解を深め、多様な学習指導の方法(ロールプレイング、ゲーム、視聴覚教材の利用やICTなど)について理解する。
3年次	前期	教育課程やその歴史の変遷について理解し、教育課程における特別活動の意義を理解し、具体的な指導の方法を身につける。道徳についても、その位置づけや方法について理解する。家庭科の指導や教材作成を実際に行い、授業計画や学習指導案の作成方法、教材の配置、評価の方法について理解するとともに、ロールプレイングやアクティブラーニングの実施方法について学ぶ。専門教育科目の履修を通して教科の内容についての理解を深め、教員としての知識と技術の習得に努める。また、中学校、高等学校の2校種の免許取得の意思を固める。
	後期	模擬授業を実践し、指導計画、指導法、評価の方法を体験的に学ぶ。教えることと学ぶことの違いを理解し、学習者主体の学習指導方法を修得する。生徒指導の意義、課題を理解するとともに、学校カウンセラーとの連携の在り方についての理解を深め、諸問題に対応するための基礎的スキルを習得する。専門科目の履修によって教材解釈を深め、教員としての資質を高める。実際に支援の必要な人との交わりを通して、支援の基礎的技術、コミュニケーション力を身につけるとともに、支援の在り方や教育方法について考察する。
4年次	前期	教育実習に向けて2年次、3年次で習得した内容を整理する。実際の教育現場に身を置き、学校経営、教育の実際を経験するとともに、現場の教員から指導を受け、より実践的課題に取り組む。生徒とのコミュニケーションを体験し、教師の仕事に対する使命感や誇り、生徒に対する愛情や責任感など教職の重要性についての学びを深める。不足している専門知識を補い、教師に必要とされる知識や技術の習得に努める。
	後期	4年間の学びや教育実習を振り返り、将来、教員になるうえで、自己にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、課題解決のための道筋を立てる。「卒業研究」を通して専門性を高めるとともに、不足している知識や技能を補いその定着を図るようにする。

※ 認定を受けている課程ごとに記載。

(現代人間部生活環境学科)

②具体的な履修カリキュラム

教科及び教職に関する科目（教科及び教科の指導法に関する科目に限る。）（中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭））

科目	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		最低修得単位数 (本学の最低単位数)	左の科目区分等に対応する本学開設授業科目				備考	
	科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	配当学年 開講期	単位数			担当教員
						中	高		
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	○現代社会と家庭経営 ○家族関係	1後 2前	2 2	2 2	青木 加奈子 青木 加奈子	
			被服学（被服製作実習を含む。）	○衣生活概論 ○衣生活材料学 ○アパレル造形学（実習を含む）	1前 2前 2前	2 2 2	2 2 2	牛田 好美 安川 涼子 牛田 好美	
			食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	○食生活概論 ○食品学 ○栄養学 ○調理学実習	1後 2前 2前 3前	2 2 2 2	2 2 2 2	加藤 佐千子 藤原 智子 山田 恵里子 藤原 智子	
			住居学（製図を含む。）	○住居学概論（製図を含む） 住居製図Ⅰ 福祉住環境デザイン	1前 2前 2前	2 1 2	2 1 2	竹原 広実 竹原 広実 竹原 広実	
			保育学（実習及び家庭看護を含む。）	○保育学（実習及び家庭看護を含む）	3後	2	2	菫原 暢子	
			家庭電気・機械及び情報処理	○家庭電気・機械及び情報処理	1後	—	2	菫 哲郎	
			教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		○家庭科教育法Ⅰ（生活の自立と衣食住）	2前	2	2	安川 涼子		
			○家庭科教育法Ⅱ（家族・家庭生活と福祉）	2後	2	2	青木 加奈子		
			○家庭科教育法Ⅲ（指導法と教材作成） ○家庭科教育法Ⅳ（模擬授業）	3前 3後	2 2	2 2	大塚 真理子 大塚 真理子		

○印は免許状取得の必修科目。△印は免許状取得の選択必修科目。

(中等教職課程共通)

教科及び教職に関する科目(教科及び教科の指導法に関する科目を除く。)

科目	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		最低修得単位数 (本学の最低単位数)	左の科目区分等に対応する本学開設授業科目				備考	
	科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	配当学年 開講期	単位数 中 高	担当教員		
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10(12)	○教育原論 教育史	1・2前 2後	2 2	2 2	田中 裕喜 石川 裕之	1科目選択必修
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		○教師論	2前	2	2	河佐 英俊	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育社会学 教育経営論	2前 2後	2 2	2 2	原 清治 河佐 英俊	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○発達と学習の教育心理	2前	2	2	畠山 寛	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○特別支援教育	2後	2	2	江川 正一	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		○中等教育課程論	2・3前	2	2	石川 裕之	
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		道徳の理論及び指導法	中10(10) 高8(8)	○道徳の指導法(中等)	2・3前	2	
総合的な学習の時間の指導法	○特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3後	2	2		河佐 英俊 大西 慎也			
特別活動の指導法	△教育の方法及び技術 △教育方法学	3後 3前	2 1	2 1		東郷 多津 神月 紀輔	△から1科目 選択必修		
教育の方法及び技術	教育評価	3前	2	2		廣口 知世			
情報通信技術を活用した教育の方法及び技術	○ICT活用教育	3前	1	1		神月 紀輔	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。		
生徒指導の理論及び方法	○生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3前	2	2		細谷 綾香			
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	○教育相談の理論及び方法	2・3前	2	2		細谷 綾香			
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法									
教育実践に関する科目	教育実習	中5(5) 高3(3)	○中等教育実習事前事後指導	4通	1	1	石川 裕之 河野 有時 加藤 佐千子 東郷 多津	中学校必修	
	学校体験活動		○中等教育実習 I 中等教育実習 II	4通 4通	2 2	2 2			
	教職実践演習	2(2)	○教職実践演習(中・高)	4後	2	2	石川 裕之 河野 有時 加藤 佐千子 東郷 多津		
大学が独自に設定する科目		中4(2) 高12(10)	道徳の指導法(中等) 介護等体験	2・3前 2・3通	— 1	2 1	石川 裕之 矢島 雅子	高等学校免許のみ 中学校免許必修	
			(大学が独自に設定する科目以外の科目の余剰単位)					最低修得単位数(中55単位、高47単位)を超えて修得した単位数	

○印は免許状取得の必修科目。△印は免許状取得の選択必修科目。

④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（全学共通）

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得 単位数	左の科目区分に対応する本学開設授業科目			備考
		授業科目	単位数		
日本国憲法	2	○憲法と人権	2	原島 啓之	2単位選択必修
体育	2	体育講義	1	高田 佳孝	
		体育実技	1	野村 照夫	
		健康スポーツ演習	2	高田 佳孝	
外国語コミュニケーション	2	日常の英会話	1	Jacques Wilburn Hardy	2単位選択必修
		旅行の英会話	1	Jodie Campbell	
		留学の英会話	1	Thomas T. Nishikawa	
		おもてなしの英会話	1	Jodie Campbell	
		ビジネス英会話	1	Eric Hail	
		英語実践（4技能）Ⅰ	1	Jacques Wilburn Hardy	英語英文学科に適用
		英語実践（4技能）Ⅱ	1	Jacques Wilburn Hardy	
		Communication Skills Ⅰ	1	Thomas T. Nishikawa	
		Communication Skills Ⅱ	1	Thomas T. Nishikawa	
		Persuasive Communication	2	小山 哲春	
		Global English Seminar	2	York Weatherford	
Public Speaking	2	Lyle De Souza			
Debate	2	小山 哲春			
数理、データ活用及び人工知能に関する科目	2	AIとデータサイエンス入門	2	北村 美穂子	
情報機器の操作	2	情報演習Ⅰ a	1	吉田 智子	2単位選択必修
		情報演習Ⅰ b	1	吉田 智子	
		情報演習Ⅱ	1	吉田 智子	
		情報処理	2	吉田 智子	

○印は免許状取得の必修科目。△印は免許状取得の選択必修科目。

5. 免許状取得までの各年次の主なスケジュール

【英語英文学科・国際日本文化学科・生活環境学科】

年次	主要スケジュール（詳細は掲示板等で確認すること）		教職に関する科目等の標準的な履修年次
1	履修登録時	1年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。	教育原論 憲法と人権、体育講義、体育実技、健康スポーツ演習、情報演習Ⅰa、情報演習Ⅰb、英語実践（4技能）Ⅰ、英語実践（4技能）Ⅱ
	12月	教職課程オリエンテーション	
	3月	教職課程オリエンテーション 履修指導 教育実習予備登録	
2	履修登録時	2年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。 取得を希望する免許状の「資格申請」をする。	教師論、発達と学習の教育心理、教育社会学、特別支援教育、情報演習Ⅱ、情報処理 英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ 家庭科教育法Ⅰ、家庭科教育法Ⅱ 日常の英会話、旅行の英会話、留学の英会話、おもてなしの英会話、ビジネス英会話、AIとデータサイエンス入門（英語科） Persuasive Communication、Public Speaking、Debate
	10月頃	介護等体験説明会	
	11月頃	教育実習報告会	
	3月	教職課程オリエンテーション 教育実習依頼指導(1) 誓約書提出・実習依頼校申請 教職課程特別講座（履修指導を含む） 介護等体験事前指導開始	
3	履修登録時	3年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。 教育実習要件を確認し、前提科目を履修する。	中等教育課程論、道徳の指導法（中等）、特別活動・総合的な学習の時間の指導法、生徒指導・進路指導の理論及び方法、教育相談の理論及び方法 英語科教育法Ⅲ、英語科教育法Ⅳ 国語科教育法Ⅲ、国語科教育法Ⅳ 家庭科教育法Ⅲ、家庭科教育法Ⅳ 教育評価、ICT活用教育 教育の方法及び技術、介護等体験（英語科） Communication SkillsⅠ、Communication SkillsⅡ
	4月頃	教育実習依頼指導(2)	
	11月頃	教育実習報告会	
	12月頃	介護等体験事後指導 司書教諭講習修了証書一括申請手続（該当者のみ）	
	3月	教職課程オリエンテーション 教職課程特別講座（履修指導を含む）	
4	履修登録時	4年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。 必要単位の不足はないか綿密に検討し直す。	中等教育実習事前事後指導、中等教育実習Ⅰ、中等教育実習Ⅱ （英語科） Global English Seminar 教職実践演習（中・高）
	4月	教育実習事前指導開始 教育実習の確定登録 教育実習費の納入	
	4～9月	実習校への通学時間などを調べ、実習校と打合せて実習の準備をする。	
	5～11月	教育実習	
	7月頃	都道府県・政令指定都市の教員採用試験	
	11月頃	教育実習事後指導 教育実習報告会	
	12月頃	免許状授与一括申請手続 司書教諭講習修了証書一括申請手続（該当者のみ）	
	3月頃	教員採用状況調査	
3月	卒業式後、免許状交付		